

平成28年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価		評価	
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	● 学生の目的意識や基礎学力により、習熟度に差は見られるものの、講義や実習による専門知識、技術の習得、並びに、寮生活やプロジェクト学習により協調性、社会性、自主性を磨くなど、目標に沿った人材育成が図られた。 ● 農大改革3年目となり、実践経営者コースは2期生が全員就農することとなった。農業経営コースは学習意欲や就農意欲の向上が見られ、12月中に全員の進路が内定し、就農率も向上した。		B	
	今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価	
	農業大学校改革の着実な推進による長野県農業を担う人材の育成と就農者の確保を促進する。				
	1 授業内容の充実を図り、農業実践教育を通じて自立した社会人を養成する。	○ 3観点の導入やアンケート等により、授業の充実に取り組んだ。 ○ 改訂カリキュラムによる授業を実施した。 ○ 農業・農村の担い手となる新社会人43人を送り出す。	・引き続き授業充実に努める。	B	
	2 実践経営者コースの運営を円滑に推進し、平成29年度入学者の確保に努める。	○ 職員の連携により、コース運営は概ね円滑にできた。 ● 求める人材の確保が難しい。 ● 定員10名→応募者9名→合格者5名	・コースのPR強化、効果的な募集活動の実施。 ・必要に応じコースの見直しに着手。	C	
3 セミナーの開催などにより、学生の就農率向上に努める。	○ 農業法人説明会、就農支援プログラムによるきめ細かな就農支援等により、就農へ結び付いた。 農業経営コース就農率37.8%(前年20.6%)	・引き続き効果的な就農支援に努める。	A		
4 農大の魅力情報の発信に努める。	○ ホームページでの発信やテレビ番組で放送されるなど、情報発信に努めた。	・引き続き広く魅力発信に努める。	A		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価																				
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生へのアンケートの実施、昨年度のアンケートを踏まえた授業の改善ができたか。	○ 授業充実状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">充実率</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3観点による授業</td> <td>100%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>実物を用いた授業</td> <td>70%</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントを用いた授業</td> <td>55%</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>中間テストを用いた授業</td> <td>23%</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>その他の取組み</td> <td>75%</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table> ● 昨年度授業アンケートを実施した27科目のうち、授業改善に取り組んだものは13科目であった(実施率48%)。 ○ 本年度の授業アンケートは、前期分を10月に、後期分を1月に実施した。	項目	充実率		H28	H27	3観点による授業	100%	98%	実物を用いた授業	70%	68%	パワーポイントを用いた授業	55%	45%	中間テストを用いた授業	23%	17%	その他の取組み	75%	70%	・アンケート結果も踏まえ、引き続き授業内容の充実に努める。	B
			項目	充実率																						
				H28	H27																					
			3観点による授業	100%	98%																					
実物を用いた授業	70%	68%																								
パワーポイントを用いた授業	55%	45%																								
中間テストを用いた授業	23%	17%																								
その他の取組み	75%	70%																								
○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、より良い学校づくりの参考にしたか。	○ 個別面談や実習等での個々のコミュニケーション、自治会役員会等により要望等を把握し、必要なものは改善した。	・引き続き要望等の把握に努め、的確に対応。	B																							
○ プロジェクト活動の進捗に併せ、同専攻1年が見学できる機会を設けたか。 ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を取入れるとともに、労働時間の比較など一層の向上が図られたか。 ○ プロジェクト生産物を自ら販売し、経営感覚を学べるよう販売体験機会を増やすなど改善が図られたか。	○ 専攻毎に1年生によるプロジェクト巡回を実施した。(果樹は実践経営者コースも参加)。 ○ 全学生がプロジェクトに経済性の検討を取入れ、収益性把握の必要性が認識できた。 ● 労働時間の比較がなされていないものがあった。 ○ 消費者アンケートや販売方法の検討など、経営的に踏み込んだプロジェクトも見られた。 ○ 1年生の野菜専攻は、担当ハウスを決め、生育や収量調査等のミニプロジェクトを実施した。 ○ 農大マルシェ「のうだい屋」を授業に組み込み、7月から10月までの間に8回実施した。	・プロジェクト巡回前に資料提供し、事前指導を実施。 ・より経営感覚を学べるような課題設定に努める。 ・1年生は全ての専攻でミニプロジェクトを実施。	B																							
○ 現場で使える知識、技術、時代変化に対応した授業内容に教授要目を見直す。 ○ 教授要目に基づき、H29年度の授業カリキュラムが編成、展開ができたか。	○ 現場で課題となっている事項や対応、今日的话题、内容を授業に取り入れた。 ○ 授業内容の見直しを踏まえ、29年度教授要目、授業カリキュラムを編成中。	・引き続き現場や状況変化を意識した授業に努める。	B																							
○ 各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、授業を改善できたか。 ○ 農業簿記検定は受験できたか。	○ 毒劇物取扱者等の資格取得や農業技術検定等の受験を勧めた。 ○ 毒劇物取扱者資格は、問題プリントによる試験勉強の奨励や模擬試験による理解度把握を行い、合格率が向上した。 ● 農業技術検定2級、危険物取扱者の合格率は低下した。 ● 初めて取り組んだ農業簿記検定は、農業経営コース2年と実践経営者コース1年の全員が受験したが、合格率は低かった。 ○ 大型特殊等の免許は、事前練習により全員合格した。	・引き続き資格試験や検定試験の受験を奨励。 ・合格率向上のため、事前学習の実施を指導。	B																							
実践経営者コース運営の円滑化を図る		○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 ○ 1年生は学生の学歴、経歴に応じた科目選択、改訂カリキュラムによる授業が円滑に実施できたか。 ○ 客員教授によるプレミアム講義や外部講師による専門的実践的講義、実習により、農業経営者に求められる4つの力を身につけることができたか。 ○ 就農時の栽培品目を1年次の早期に決定し、効果的な模擬経営ができたか。 ○ 模擬経営を通じて、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。	○ 職員の連携が図られ、講義、実習などのコース運営と就農支援が一体的に実施でき、コース運営は円滑に機能した。 ○ 1年生は、各自が必要な科目を選択するとともに、改訂カリキュラムによる授業を実施した。 ● 1年生は、授業への欠席など、学生としての自覚や学習意欲が低い者が見られる。 ● 2年生は、4つの力の資質は身に付いたが、自ら判断して作業を行う自立性や技術習得がやや不十分な者が見られる。 ○ 就農時の柱となる栽培品目を入学早々に決定し、2年生は概ね当初の品目で模擬経営を実施した。1年生も就農時の品目を踏まえた実習や模擬経営計画作成ができた。 ○ 模擬経営や就農計画作成を通じて、栽培品目の再検討や就農後の労力、資金確保等の検討ができた。	・引き続きコース運営と就農支援を一体的に実施。 ・入学者選考の厳格化による資質の高い学生の確保。 ・1年次における実習の強化、目的意識を持った農業経営体験実習の実施。	B																					
		○ 就農支援プログラムやマニュアルに基づき、就農形態に応じた計画的、きめ細かな個別就農支援ができたか。	○ 職員が連携して個別に就農支援を実施した。 ○ 2年生は、農地や機械・施設、必要な資金などの確保に目途がついた。 ○ 独立・自営就農する1年生は、就農地の決定ができた。	・引き続き早期から個別支援を実施。	B																					
		○ 効率的・計画的な農場利用で学習効果が高める	○ 果樹以外は、十分なほ場が確保できた。 ● 果樹は、校外ほ場の借用等により、模擬経営ほ場は確保できたが、実習用ぶどうほ場の不足やプロジェクト規模が小さくなるなどの影響があった。	・引き続き実践と農業経営コースとの調整を図る。 ・既存果樹園の改植によるぶどう園の拡大。	B																					

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価	
教育活動	学習指導	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 収穫時期を踏まえた作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、基礎的技術の習得と併せて販売を目的とした作付けができたか。 ○ 1年生は、実習時間の増加により、適期に必要な実習ができたか。 また、現地体験実習前に、基礎的な知識、技術が理解できたか。 ○ 特別教授の弾力的な業務分担等により、各専攻とも適期には場管理ができたか。	○ 前年度末に農場等の利用計画を決定し、有効活用を図った。 ○ 新たに、模擬経営ほ場とプロジェクトほ場に、各学生の研究内容を記載した看板を設置した。 ○ 1年生は実習時間を増やし、必要な実習の適期実施や販売を目的とした生産活動が行われた。 また、現地体験実習前の基礎的知識や技能の習得に努めた。 ○ 特定の専攻の繁忙期には、他の特別教授が労力補完する仕組みを作った。	・引き続き農場の有効活用、実習の適期実施等に努める。	B	
			○ 農場管理マニュアルの更新や家畜管理マニュアルの整備により、適切な休日の農場管理が実行できたか。	○ 農場管理マニュアルより、適切な農場管理ができた。 ○ 家畜管理マニュアルは随時更新し、休日の管理が適切にできた。	・より解り易いマニュアルづくりと適切な管理に努める。	B	
	進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	○ 1年生は10月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 ○ 2年生は2月末を目途に就農及び就職先等決定するよう指導できたか。	○ 1年生は、4月に専攻や進路希望の個別面談を、10月に就農希望者について個別面談を実施。11月には三者面談を実施し、適切な進路指導ができた。 ○ 2年生は、4月に個別面談、三者面談を実施し、全員の進路が12月中に内定した。	・引き続き早期の進路決定を指導。	A	
			○ 円滑な就農に向け、農業経営演習を充実できたか。 ○ 就農促進セミナーや法人合同説明会等を通じ円滑な就農への取組みができたか。 ○ 就農支援プログラム等に基づく就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。	○ 農業経営演習は、就農の意義、支援制度等の講義や現地で法人経営者等から話を聴講するなど就農への理解、意識を高めた。 ○ 法人合同説明会は、1名が法人就農に結び付いた。 ○ インターンシップは12名が実施した(H27、11人)。 ○ 2年生就農希望者14名のうち、支援が必要な10名(独立・自営就農1、新部門開始親元就農1、法人就農8)に対してチームで個別支援した。	・引き続き就農形態に応じた個別支援を実施。 ・法人合同説明会等で自ら情報収集できるよう指導。	A	
		就職・進学情報の提供	○ 学内掲示板、専用サイト、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。	○ 学校に対する求人情報を随時掲示するとともに、ホームルーム等で周知した。 ○ 学校ホームページを利用した求人情報の提供には至らなかったが、必要に応じ個別に情報提供を行った。	・学生個々の希望に応じた情報提供の実施。	B	
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	○ 交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 ○ 学年担当者会議や学生部の打ち合わせが定期的に行われ、教授間の情報共有や役割分担、全員で指導する体制ができたか。	○ 交通安全・防犯研修会、健康講座により生命尊重等の啓発を行った。  ● 4月の入寮後、8月の部屋替え後等に職員が宿直し、規律正しい寮生活を指導したが、朝の点呼に出ない者もいるなど規則違反が見られた。 ○ 自治会は役員会を定期開催し、組織的に運営された。 ○ ホームルーム前に学年担当職員会議を開催し、学生の生活等の情報の共有や対応の検討を行った。	・職員全員による指導を強化し、社会人としての意識を一層高める。	B	
			自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	○ 寮生活を通じ、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 農業経営コース1年生と2年生との、農業経営コースと実践経営者コースとの交流機会を増やしたか。 ○ 自治会専門部の定期的な開催により、自主活動が強化されたか。	○ 自治会活動や寮生活を通じ、先輩・後輩など学生間の関係は円滑になっている。 ○ 自治会が主体となった歓迎会、収穫祭などのイベントや体育大会、可能な場合は農業経営コースと実践コースの実習を一緒に実施するなど、学生間の交流を図った。 ● 専門部は、定期開催や自主的活動ができなかったものもある。	・引き続き学生間の交流を図る。 ・全ての専門部が定期開催、自主的活動ができるよう指導。	B
		教育設備の充実と適正な管理	○ 水田の漏水、排水対策は実施されたか。 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。 ○ 農業関連企業との連携や職員研修により、導入した農機・設備の効率的利用ができたか。	○ 水田の漏水、排水対策は実施した。 ○ 実習に必要な機械、設備は充分確保されている。 ○ 農機メーカーとの連携授業により、機械の効率的利用やプロジェクトでの活用を図った。 ○ 職員研修は、2月に農機メーカーの協力を得て、トラクターの操作、メンテナンス等について実施した。	・農機メーカーとの連携等により引き続き有効利用に努める。	B	
	学校運営	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	○ 農業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。 ○ 実習棟・機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。	○ 機械の点検、修理は適正に行われた。点検、修理車両は掲示板に表示し、情報共有した。 ● 使用後の使用簿記入、洗浄、給油は徹底できなかった。 ○ 使用できない機械は4月に廃棄した。	・会議等で使用簿記入、洗浄、給油の徹底。	B	
			学校用地や施設の適切な維持管理	○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。	○ 校舎の定期清掃を月1回実施した。 ○ 学生寮は自治会による自主的な清掃を実施した。	・引き続き定期的な清掃を実施。	B
			農大の魅力発信と学生確保の活動	○ 学校案内や学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ 実践経営者コースは、就農に向けた相談会及びコース説明会の通年実施やメディアの活用等により、効果的な募集活動ができたか。 ○ 2回の入試により、実践経営者コースの平成29年度入学者10名が確保できたか。	○ 学校案内、入試案内等を県内外の高校等に配布した。 ○ 新たに、県内農業高校3年生全員を対象にしたチラシを作成、配布した。 ○ 県内外の就農相談会、コース説明会(第4日曜日)により就農相談やコースの周知を実施した。 ○ 農業後継者・親へのダイレクトメール、JA部会員への募集チラシ配布、メディアでのコースPRを実施した。 ○ 2回の入試に加え、2月に追加募集を実施。 ● 応募が低調で、年々応募者が減少。 定員10名→応募者9名→合格者5名	・引き続き学校案内を早期に作成し、本校への関心を高める。 ・ホームページの充実、市町村等へのコースのPR強化。 ・農業高校、農家子弟への働きかけ。 ・必要に応じコースの見直しを検討。	B
		ホームページの充実を図る	○ 専用サイトは各専攻が積極的に情報発信したか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援を、農業関係者、教育関係者や広く県民に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。	● 専用サイトの各専攻のブログ等の執筆は低調だった。 ○ 新たに、ホームページで講師陣の顔写真入りプロフィールを紹介した。 ○ 学生募集や授業、行事等を積極的に広報した。(プレスリリース 19件、新聞記事掲載 9件、テレビ、ラジオ報道 14件) ○ 9月に広報委員会を立ち上げ、下半期の広報計画を作成した。	・「毎月1専攻1記事」など具体的目標を定めてブログを更新。 ・広報委員会の定期的開催。	B	
その他		予算執行の適正化を図る	○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	○ 農場は専攻別に、管理運営費は費目別に予算執行状況を整理した上で全職員に毎月情報提供し、計画的な予算執行に努めた。	・引き続き、効率的な予算執行に努める。	B	